

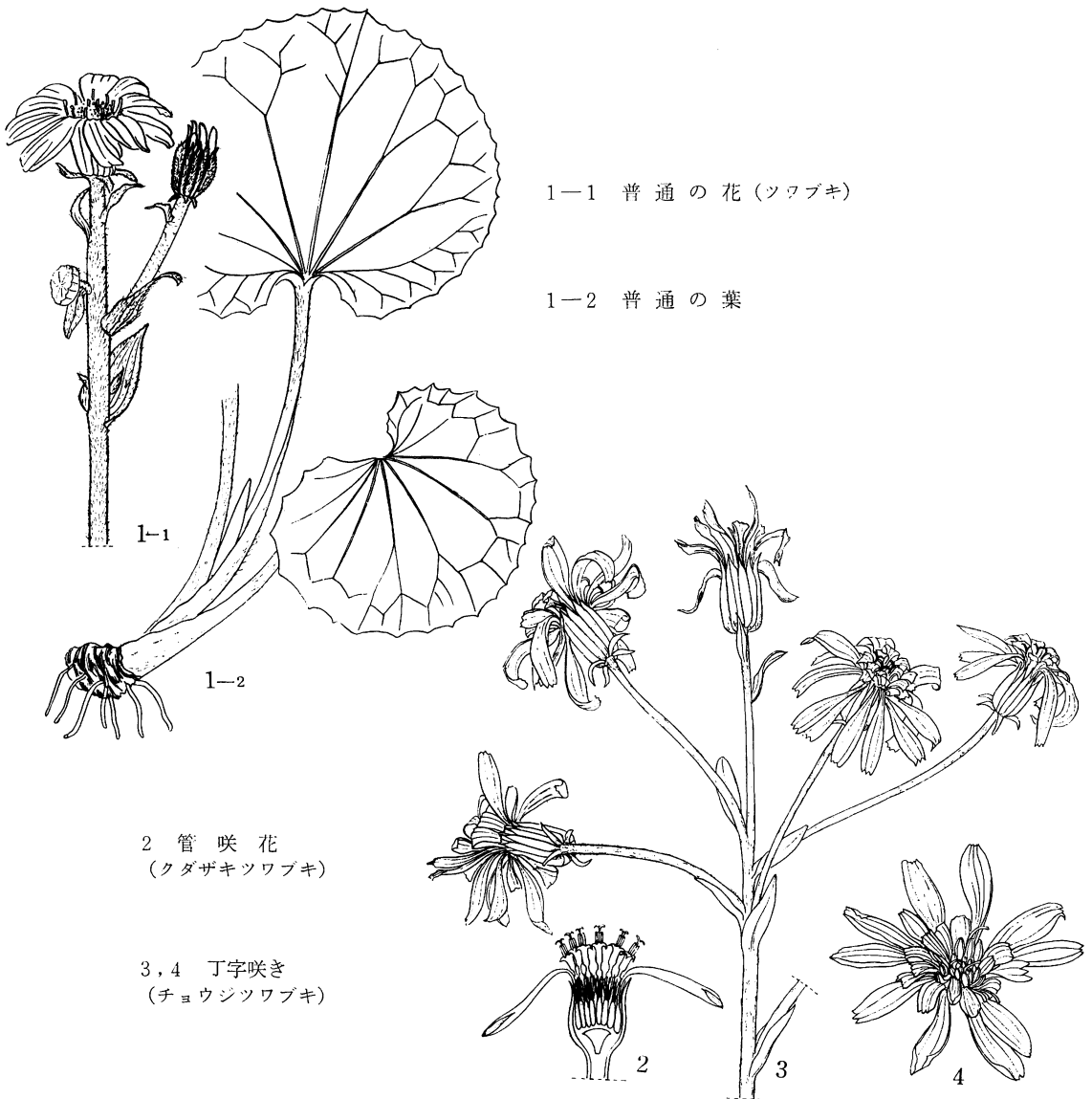
私の集めたツワブキ

杉 山 経 明

私は、永年植物を集めて栽培してきましたが、特に奇形品、斑入品に異状に興味を持って集めて栽培しています。ことにツワブキは栽培がしやすいうえ、1年中、葉が美しいので、変わりものがありますと、いつでも、どこへでも行って集めます。大きいオオツワブキもよく、

小さいモミジツワブキもよいし、斑入もの、獅子葉もなかなか風情があってよろしい。ことに初冬の花、果実の散り方など、眺めると誠によい風情が湧いてきます。

このツワブキの面白い特徴は葉の大きさを思いのままに作りあげることができます。石付きなどには環境とに



らみあわせて小さくしたいときは、早春に出た葉を摘みとり、それでも大きいときは、さらに摘みます。

この摘みとるときは若い褐色の毛で包まれており、葉柄は茹でてフキのようにして食べたり、皮を剥いてから漬物にしますと、おいしくいただけます。しかし時期が遅くなって褐毛の落ちたものは苦味が強く固くなって用にはなりません。

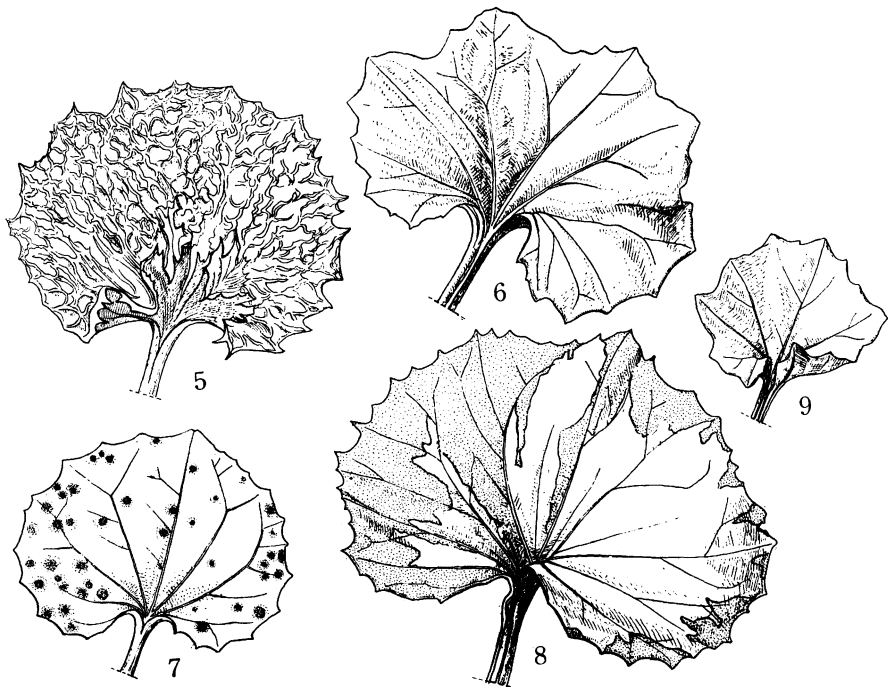
ツワブキは裏日本では石川県以南、表日本では福島県以南の地に自生しています。ことに三浦半島、紀伊半島、九州の海岸では見事な群落を作っています。

いま、私の栽培しているものを検索表によって示しますと、次のようです。

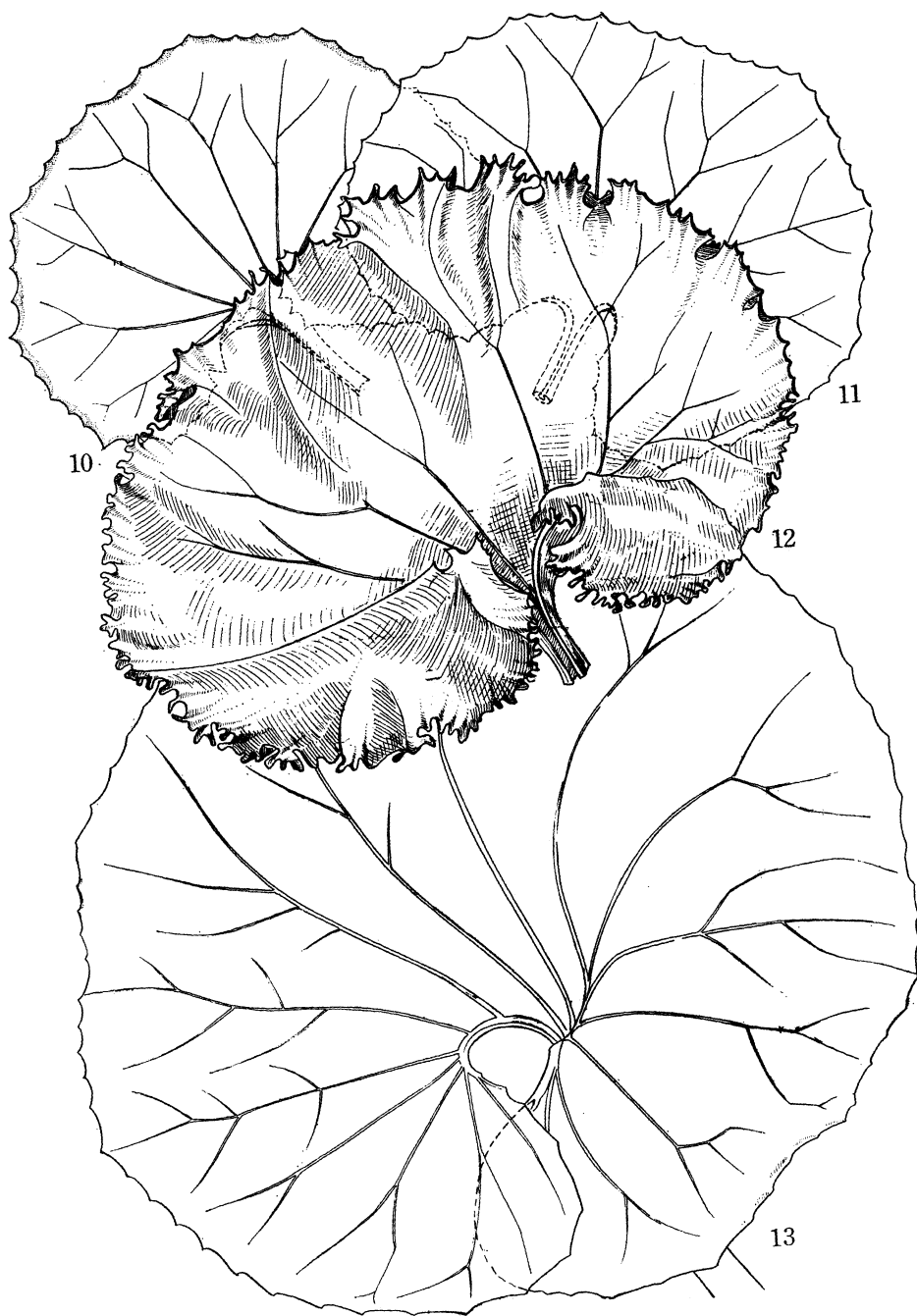
検索表

- A1 葉の巾 6~13cm, 長さ 4~15cm, 葉縁は彎曲せず
- B1 冠毛は汚れた褐色, 葉に鋸歯なし
- C1 葉は全部緑色
- D1 葉縁はゆるい 5~7 角形
- E1 葉柄は褐色, または薄黒色
- F1 舌状花は 1 列生……………ツワブキ

- F2 舌状花は管咲き…クダザキツワブキ
- F3 花は丁字咲き…チュウジツワブキ
- F4 舌状花は中心までつき, 筒状花はない……………ヤエツワブキ
- E2 葉柄は青緑色……………アオツワブキ
- D2 葉縁は著しく鋸歯が発達 ボタンバツワブキ
- D3 葉縁, 葉上に突起がある …シンバツワブキ
- C2 葉に白, または黄斑がある
- D1 葉に大, または小さい黄斑がある……………キモンツワブキ
- D2 葉縁及び脈にそって白い斑がある, 後に赤変する……………シラフツワブキ
- D3 葉縁に黄色の覆輪がある フクリンツワブキ
- B2 冠毛は白色, 葉に鋭い鋸歯があり, 花は冬に開く……………カンツワブキ
- A2 葉の巾 40cm 以上, 長さ 15cm 以上あり, 葉は特に強い光沢がある。内側に彎曲する……………オオツワブキ
- A3 葉の巾 6cm 以下, 長さ 4cm で, 葉縁は著しく角張る……………モミジバツワブキ



5 獅子葉 (シンバツワブキ) 6 槭葉 (モミジバツワブキ)
 7 槭葉ビールス (キモンツワブキ) 8 白羽毛目紋 (シラフツワブキ)
 9 槭葉



- | | | | |
|----|----|---|------------|
| 10 | 覆 | 輪 | (フクリンツワブキ) |
| 11 | 遅 | 咲 | (オソザキツワブキ) |
| 12 | 牡丹 | 葉 | (ボタンバツワブキ) |
| 13 | 蓮 | 葉 | (オオツワブキ) |

以上の品種を4大別してみます。すなわち

- (1) 普通種
- (2) 花の変化種
- (3) 葉の斑入種
- (4) 葉の変化種です。

1. 普通種

ツワブキ 葉柄が茶褐色を帯びています。花は舌状花が1列に並びます(第1図)。

アオツワブキ 葉柄が緑で、花はツワブキと同じです。以上の2種は海岸に混生しています。

2. 花の変化品種

ヤエツワブキ 花の中心部まで舌状花をつけるもので珍しい美しいものです(第4図)。

クダザキツワブキ ツワブキの舌状花が管咲きになったものです(第2図)。

はじめ宮崎文吾博士が宮崎県で発見されたが、私のところでよく育っています。

チョウジツワブキ 舌状花は1列生ですが、筒状花が大きくなったものです。大変にぎやかに咲きます(第3図)。

カンツワブキ ツワブキと似ていますが寒咲きです。ツワブキ類は冠毛が汚い褐色ですが、本種は純白です。葉には鋭い鋸歯がありますので花がなくても葉で区別できます(第11図)。

3. 葉の斑入品種

シラフツワブキ 単なる覆輪でなく、葉脈に沿って白

斑が入り混んでいます。寒さが増すと白色部分が紅色に変わってきます(第8図)。

フクリンツワブキ 葉縁に黄色い覆輪のあるものです。葉は大きくなりません。すべて園芸品種で野生のものはありません(第10図)。

キモンツワブキ 葉身中に大斑、または小斑のうす黄色の斑が入っています。葉はあまり大きくなりません。本品種はビールス(?)性のもとも言われています。播種しても、生えたものは全部斑入りになります(第7図)。

4. 葉の変化種

シンバツワブキ 葉縁および葉上が著しく凹凸しています。最も珍しいものです。本品種は古くから知られていて草木錦葉集にはボタンツワブキ(オニツワブキ)として出ています。このひだは多くて、こまかいものほど貴品としています(第5図)。

ボタンバツワブキ 葉縁に著しい鋸歯が発達しています。小盆栽として面白いものです(第12図)。

モミジバツワブキ 葉が小形で5~7に角張ります。ちょっとモミジの葉を思わせる形です。葉の巾は9cm以下です(第6,9図)。

オオツワブキ 葉の著しく大きいもので、葉の巾、40cm以上です。葉柄も50cm以上もあります。葉は特に光沢が強く彎曲し、両縁が内側に巻きます。多くは庭に栽培しますが、九州西部には自生します。若い葉柄を漬物にしますが、なかなかおつなものです(第13図)。

兵 庫 の 自 然

本書は県内60余人の先生方に依頼して、神戸新聞社のじぎく文庫から昭和35年5月に出版いたしました。

ところが本書は会員制のために多数の希望者がありましたにもかかわらず、お預けすることができませんでした。

この度、倉庫からみつかりましたのでご希望の方にお分けいたします。

なお、本書の内容については第4巻p.49および同巻p.113をご参照下さい。

ご希望の方は至急お申込み下さいませ。

定価 1冊 300円(送料とも)

申込書 神戸市長田区蓮宮通5の5 室 井 綽 振替番号神戸8941番へ。